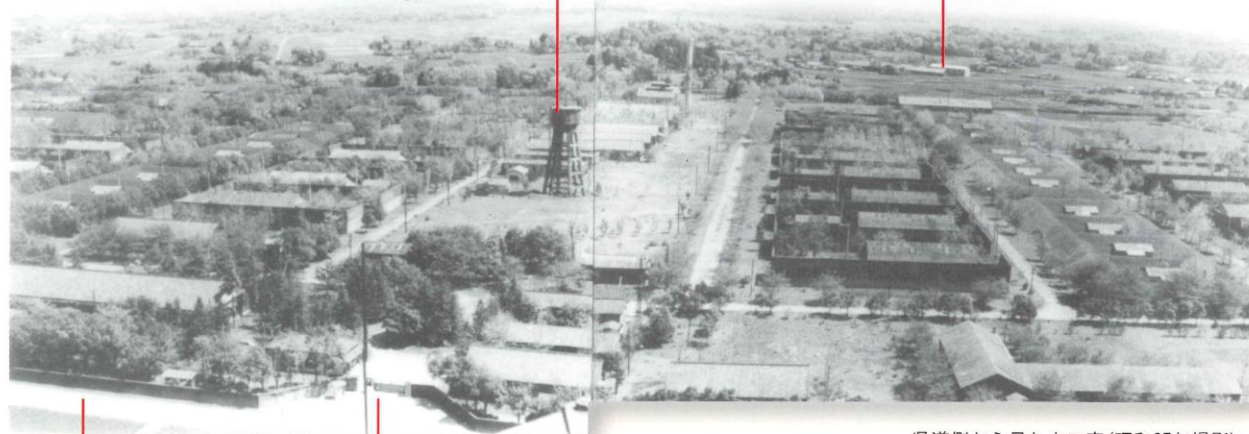


2 火工廠の建物

6千人の人たちが火薬や鉄砲の弾を作っていた火工廠には、どのような建物があったのでしょうか。写真や図を見ながら確認しましょう。これらの建物が今のどのあたりになるか調べて見ましょう。



県道側から見た火工廠(昭和27年撮影)



火工廠Q&A パート2

問①：火工廠の広さはどのくらいでしたか？

答え：たて約1キロメートル、横約500メートルの大きさで、約50万4千平方メートル（東京ドームの約11倍）の面積になります。

問②：火工廠にはどのくらいの数の建物がありましたか？

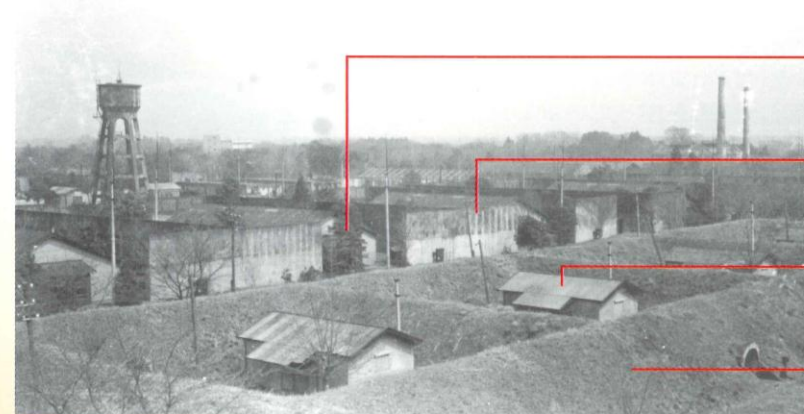
答え：いちばん多いときで約600棟の建物がありました。

問③：問⑤：何人くらいの人たちが働いていましたか？

答え：いちばん多いときには6千人もいました。そのなかには今の中学生・高校生にあたる学生も含まれていました。

問④：火工廠の建物にはどのような特徴がありましたか？

答え：高さ4メートルの土手や、高さ6メートルのコンクリートで作られたじょうぶな壁でそれぞれの建物のまわりが囲まれていました。もしも一つの建物で火薬の爆発事故が起きても、近くの建物に被害を与えないように土手や壁がつけられました。



戦後の火工廠(昭和34年撮影)

問⑤：火工廠全体は大きく四つに分けられていました。それぞれどのような違いがありましたか？

答え：火工廠は仕事の内容により次のように分けられていました(左の全体図参照)。

- 第一工場：火薬を製造する工場がありました。
- 第二工場：火薬を鉄砲の弾の部品に入れる工場がありました。
- 第三工場：火薬を弾の部品に入れたり、火薬が入った部品どうしを組み立てて鉄砲の弾を完成させる工場がありました。
- その他：事務所・病院・食堂など、火工廠で働く人たちが共同で使う建物がありました。

今の中中央公園です

今はスクランブル交差点になっています

